



「京おくら」の産地化に向けた 農福連携・農家所得向上の取り組み

担い手の声をもとに新規品目をブランディング

J A 京都中央 京おくら出荷部会

J A 京都中央は、都市近郊地域から山間地域まで広範囲をカバーし、京都市をはじめ3市1町を管轄しています。主な栽培品目として、京野菜を中心に「京たけのこ」「九条ねぎ」「なす」「花菜」があり、水稻栽培も盛んです。

同JAでは、特に「九条ねぎ」「なす」「花菜」の産地育成に力を入れてきましたが、昨今の農業情勢や異常気象などにより、産地の規模縮小に歯止めがかからなくなっています。この状況を打開するため、担い手の声をもとに、新規品目として“オクラ”に着目し、「京おくら」と名づけたブランド化の取り組みを始めました。

取り組み初年度は、担い手とTACが試験栽培と出荷を行い、その後、J A 京都中央京おくら出荷部会を設立、訪問活動を通じて「京おくら」の普及拡大を進めました。部会には多くの担い手が入会し、生産面積が拡大した一方で、新たに生じた3つの課題を解決するための取り組みがスタートしました。



ブランド化に取り組んだ「京おくら」

課題①

担い手労働力負担の軽減～農福連携の取り組み～

特に担い手の負担となっていた「収穫から出荷までの工程」について、近年注目が集まっている「農福連携」の取り組みとして作業委託を行いました。担い手からは「作業、精神的負担ともに軽減され、取り組んで本当に良かった」といううれしい言葉もありました。この取り組みが「日本農業新聞」でも取り上げられたことがきっかけ



出荷調製作業の出前指導



日本農業新聞(2023年8月20日)

となり、その後、作業委託の件数が3件増加しました。

課題②

「京おくら」の単価向上～出荷時期、出荷先の検討～

単価向上をめざし、早期出荷と、出荷最盛期の激しい単価下落を防ぐため2市場への分荷、大手量販店への販路確保に取り組みました。その結果、早期出荷により単価は上昇、最盛期の単価下落幅減少につながりました。

課題③

規格外品の販路開拓～ロスを減らして所得向上へ～

従来より大きめのサイズを中心とした規格を新たに追加し、規格外品の量販店への販路拡大を行いました。出荷量、販売金額ともに大幅に向上することができたとともに、J A 全農京都が行うコンテナ貸出事業を利用することで、資材コストの44%削減にもつながりました。



これらの取り組みは、担い手の満足度、意欲向上につながっており、さらなる産地の盛り上がり期待できます。今後も産地活性化のために、行政、全農関係機関と連携し、管内全体に取り組みを広げていくべく、日々のTAC活動に邁進していただけるようサポートします。

【全農 西日本営農資材事業所 TAC・生産対策課】

栽培基礎講座／きゅうり栽培の基礎と炭酸ガス施用による増収効果	2
栽培技術セミナー／いちごの増収・省エネ生産を両立するスマートCO ₂ 施用技術	4
栽培技術セミナー／カーネーション切り花の開花促進	6
施肥技術セミナー／トルコギキョウの二度切り栽培における施肥技術	8
防除技術セミナー／太陽熱土壌消毒によるフリージアの病害虫防除技術	10
新技術セミナー／施設園芸の部会内データ共有による収量向上	12
J Aと連携した農業普及活動	
持続的な飛騨トマト産地をめざして	14
届け！全農の取り組み／共乾施設を適正に運転・運営するための講習会を開催	16
太鼓判 おすすめ品種紹介 第48回／きゅうり	18
商品ガイド／植物由来の新規殺菌剤「プロブラッド®液剤」	20

商品ガイド／全農オリジナル商品「おいらは防曇袋五郎®」	21
営農アシスト／事業承継に係る税制について	22
担い手とともに／J A 京都中央 京おくら出荷部会	
「京おくら」の産地化に向けた 農福連携・農家所得向上の取り組み	24

8月号読者アンケートのお願い

よりよい誌面づくりのために、皆さまの声をお寄せください。

回答締切：令和7年8月31日(日)

回答方法：二次元コードもしくはURLから

URL：https://forms.office.com/r/qtBmRTagHK

